

【 41 】

氏名	古 元 順 子
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 3 2 2 号
学位授与の日付	昭和44年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系神経精神医学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	軽度の一酸化炭素中毒の既往歴を有し、脳器質性異常を 基盤として発生した全生活史健忘の興味ある一症例につ いてとくに意識障害との関連を中心とした全生活史健忘 の文献的考察
論 文 審 査 委 員	教授 奥 村 二 吉 教授 西 本 詮 教授 小坂二度見

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

全生活史健忘が境界鮮明な選択的追想欠落であり、抑圧の機制に基くヒステリー性記憶障害であるのは周知のことであるが、我が国においてはこの種健忘の詳細な報告例が少い上に、健忘発現に関連する意識障害についての見解が必ずしも明らかにされていない。

本論文では、全生活史健忘の発端から回復にいたる全経過を詳細に検討することのできた症例に、一酸化炭素中毒の既往歴および癲癇性脳波異常、脳室拡大などの脳器質変化が認められたので、これら諸因子の本例における意識障害に対する関与如何について臨床的並びに文献的考察を行ない、併せて全生活史健忘というヒステリー反応の過程が、器質的意識障害を利用しても起り得ることを推論した。

論文審査の結果の要旨

本研究は1例の全生活史健忘の症例報告であるが本例に於ては直前にCO中毒があり、健忘中、健忘後に異常脳波が認められた。著者は健忘と此らとの関係を追究してCO中毒の関与は比較的軽く、てんかんの関与は相等大きな比重をもつと結論した。全生活健忘の臨床例の詳細なる記述とその分析はヒステリーとてんかんの関連に関する重要な知見を得た価値ある業績であると認める。よって本研究員は医学博士の学位を得る資格があると認める。